

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570200867
法人名	(有)ケアセンターみやこじま
事業所名	グループホーム ふるる
所在地	宮崎県都城市安久町5596-1 (電話) 0986-39-6961

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 22 年 3 月 8 日

【情報提供票より】(平成22年2月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 6 月 10 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 7 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	12.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(2月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	61 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ゆうクリニック ・ 柴田歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは静かな環境の中に同法人の有料老人ホームやデイサービスができて、人や車の通りが多くなり、利用者も外を眺める楽しみができています。ホームの職員は理念を理解し「認知症高齢者の自立と尊厳を重視し、地域との連携と貢献」を日々のケアに活かした取り組みをしている。協力医療機関やかかりつけ医師との連携もすすみ、介護計画にも意見を貰うなど、利用者が安心して落ち着いて暮らせるような、職員の熱意のあるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、主な改善課題はなかった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニット毎のミーティング時に外部評価・自己評価の内容や意義について話し合い、項目毎に日頃のケアを振り返り、質の向上に全員で取り組んでいくように努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、利用者代表、家族代表、市担当者、公民館長または民生委員、社協職員等の出席で開催され、運営状況報告等や、災害訓練等が報告され、活発な意見が出され、意見はサービス向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会や運営推進会議、介護相談員に寄せられた意見等、また、家族来訪時に話しを聞くようにして、その内容は職員ミーティングで話し合い、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の区会に加入し地域の公民館長から市報を届けてもらったり、相談や見学に訪れる人もいて地域の人とふれ合う機会が増えてきている。職員は地域との交流、催し事への参加を考慮している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認知症高齢者の自立と尊厳を重視する。私たちはグループホームとして地域との連携と貢献をはかる」を理念に事務室や玄関に掲示している。		創設からの理念を基本に、職員全員で話し合い、ホーム独自の理念を創っても良いのではないだろうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を基本に、管理者は利用者一人一人のペースに合わせ、日常生活を安心・安全に暮らしているような支援・援助を心掛け、日常のケアに「待って」を言わないように指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の自治会に加入し、公民館長から市報を届けてもらったり、相談や見学に訪れる人もいて地域の人とふれ合う機会が増えてきている。職員は地域との交流、催し事への参加を考慮している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングで外部評価・自己評価の内容や意義について話し合い、項目毎に日頃のケアを振り返り、より質の向上に改善など全員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、利用者代表、家族代表、市担当者、公民館長または民生委員、社協職員等の出席で開催され、運営状況報告や、事業所の災害訓練等が報告され、看板設置や避難経路の舗装の件など活発な意見が出され検討されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の出席以外に介護保険に関することなど、市の担当者との連携を密にしサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日頃の暮らしぶりは、家族来訪時に報告し、ホームの行事や新入職員、新しい入居者の紹介などを掲載した新聞を年4回発行している。健康状態などの変化がある時は、その都度、電話や手紙で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議、介護相談員に寄せられた意見等、また、家族来訪時に話を聞くようにして、その内容は職員ミーティングで話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新入職員を利用者に紹介し、介助の内容によっては、慣れている職員が指導しながら関わりの機会を多くするように利用者への配慮に工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は定期的に勉強会を行っているが、外部の研修等に参加する機会が少ない。		外部研修にも参加する機会を工夫してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修に参加して同業者に意見を聞くことはあるが、あまり参加はできていない。		他の同業者と交流する機会を増やし、出された意見を活かしてサービスの質の向上に取り組んでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族が見学を訪れて利用者の中に知人がいることを知り、ホームの雰囲気に徐々に馴染めるよう家族に電話をするなどの協力を得ながら工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に肩を揉んでもらったり、浴室の掃除や洗濯物の干し方を教わるなど、また、手作りカレンダーと一緒に塗ったり、日々支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントシートを利用し、利用者一人ひとりの担当職員や関わる職員が、本人の希望や要望の把握に努め、申し送りノートで全員が共有し本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット毎に職員全員が意見を出し合ったミニカンファレンスをもとに、本人・家族・主治医・関係者の意見に基づいて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアマネジャーを中心にケア経過記録を基に毎月評価を行い、3か月ごとに介護計画の見直しと状態に変化がある場合は主治医の出席あるいは意見書を基に担当者会議を開催し計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の意向や状況に合わせて職員が病院受診に付き添い、また、急な発熱等の時は協力医療機関を受診するなど柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等の希望でかかりつけ医を継続して受診できるよう連携を密にし、協力医療機関にも突発的な受診や往診をお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針と受け入れる体制は看取りの経験もあり出来ている。また、主治医や家族の意向を受けカンファレンスを行い職員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに関して研修で再認識するとともに、利用者に対して人生の先輩として同じ高さの目線で話しを聞くなど親しみを感じられるように心配りに配慮し、記録など個人情報の取り扱いについても注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にあるように自立と尊厳を目標に一人ひとりのペースにあわせて、「待って」を言わないで出来る限り利用者の希望に添えるように支援するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時は職員がやさしく声かけしながら介助し、利用者一人ひとりのペースでゆったりと旬の食材を使用した料理を美味しく楽しい雰囲気の中で完食するよう支援し、職員一人と一緒に食事している。	○	出来れば、ユニットごとに利用者と職員が同じテーブルで同じ物を一緒に食べながら、家庭的な雰囲気の楽しい団欒の場にしてほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間などは決めているが、体調や本人の希望を考慮して柔軟に対応し、無理強いはないが、声かけに工夫したり、希望があれば、毎日でも入浴やシャワー浴も出来るようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌の好きな人や自画像を描く人、食事の後片付けや洗濯物たたみ・花を植えたり、水やりなど利用者一人ひとりに合った役割を持ち、また体操やレクリエーションなども要望を聞いて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は戸外に散歩やユニット毎に花見などに出かけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の所在を確認することで、日中は玄関の鍵はしていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力や公民館長や民生委員に呼びかけ、夜間を想定した防災訓練も実施し、地区消防団への協力を得られるよう努めている。近隣住民の協力を得るまでにはなっていない。また、避難経路のスロープを降りた所は、ぬかるみになることがある。	○	ぬかるみの対策など避難経路の確保や、防災訓練に近隣の住民の参加が得られるように働きかけを行なってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定と食事摂取量・水分量をチェック表に記録し、食事形態も一人ひとりに合うように調理され栄養が充分に摂れるようにゆったりとしたペースで食事ができるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2つのユニットを結ぶ共用の広間は、長椅子が並べてあり多角的に利用出来るようになっていて、採光も良く明るく、ガラス戸をあけると外は避難経路としてスロープになっている。食堂や廊下等もさわやかに快適に過せるように工夫してある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や椅子が置かれ、壁には本人や家族の写真が飾っており、安心して落ち着いた生活が出来るように工夫されている。		